

厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)  
「医師確保計画を踏まえた効果的な医師偏在対策の推進についての政策研究」  
分担研究報告書

分担研究名 地域医療に従事する女性医師の確保をめぐる諸課題についての検討

研究分担者 片岡 仁美  
(岡山大学病院ダイバーシティ推進センター 教授)

## 研究要旨

医療機関に従事する医師のうち女性の割合は2018年で全年齢では21.9%であるが、29歳以下では35.9%を占め、地域医療に従事する女性医師が今後さらに増加することが見込まれる中、女性医師に固有の課題について分野横断的に検討を行い、地域医療に関心や志のある医師が活躍できるようにするための課題の検討を行う。

地域卒卒業生の医師、地域卒学生(高学年)に対し、アンケートによる意識調査を行う。また、各都道府県担当部署にもアンケート調査を行い、現状分析及びの好事例の事例収集を行う。特に特徴的な事例については、インタビューを予定し、質的評価を行う。

### A. 研究目的

医療機関に従事する医師のうち女性の割合は2018年で全年齢では21.9%であるが、29歳以下では35.9%を占め、地域医療に従事する女性医師が今後さらに増加することが見込まれる。

一方で医師会、各学会などの調査では女性医師の約4割が離職を経験することを報告している。また、岡山大学における先行研究では、離職を経験する時期は卒後10年以内が90%以上であることを報告している。

地域卒卒業生は卒業後に地域医療従事の義務を有することが殆どであり、義務の履行とライフイベントとの両立は若手医師にとって非常に重要な課題である。そこで、本研究では地域卒卒業生においてライフイベントと地域医療勤務の両立に関してどのような課題があるかを調査するとともに、両立のための具体的な支援策についても検討し、政策提言することを目的とする。

### B. 研究方法

(1) 地域卒卒業生の義務履行状況とライフイベントに関する調査

地域卒卒業生の義務履行状況とライフイベントの関係について既存の資料を基に分析する。

(2) 専攻医の研修状況とライフイベントに関する調査

地域卒卒業生の義務年限と同時期となることが多い専門研修を行っている専攻医の研修状況とライフイベントの関係について既存の資料を基に分析する。

(3) 地域卒学生・卒業生アンケート

全国の医学部の中から各地域別に1校を抽出し、当該大学の地域卒学生(高学年)及び卒業生にアンケート調査を行い、ライフイベントと地域医療勤務の両立に関する課題についてのアンケート調査を行う。

(4) 自治体アンケート

各都道府県担当部署にもアンケート調査を行い、現状分析及びの好事例の事例収集を行う。

(5) インタビュー調査

各都道府県のアンケートにおいて好事例の収集を行い、個別のインタビュー調査もしくはフォーカスグループインタビューを行う。インタビュー結果については質的解析を行う。

### C. 研究結果

(1) 地域卒卒業生の義務履行状況とライフイベントに関する調査 医道審議会(医師分科会医師専門研修部会)の資料(2020年7月17日従事要件が課されている医師への対応について)を分析した結果、2019年度に専門研修に取り組む地域卒医師のうち地域卒離脱者は29名、3.9%であり(非

離脱者は 707 名、96.1%)、離脱した理由のうち結婚による配偶者への他県同伴は 12 名であり、41.3%であった。2020 年度に専門研修に 取り組む地域枠医師のうち地域枠離脱者は 15 名、1.5%であり (非離脱者は 958 名、98.5%)、離脱した理由のうち結婚による配偶者への他県同伴は 1 名であり、6.6% であった。

#### (2) 専攻医の研修状況とライフイベントに関する調査

医道審議会(医師分科会医師専門研修部会)の資料(2022年2月2日専門研修における子育て世代の医師に対する支援について)を分析した結果、令和1~3年度に専門研修を辞退した専攻医のうち妊娠・出産・育児によるものは 24 名、家庭の事情 25 名、介護 6 名という結果であった。また、地域枠卒業生が柔軟に専門研修を行うための方策の一つとしてカリキュラム制での研修の充実が望まれているが、本資料に基づきカリキュラム制の専門研修を受ける専攻医についても分析を行った。令和3年度カリキュラム制で専門研修を受ける専攻医は 100 名で、うちその理由が出産・育児・介護である者は 11 名であった。性別は女性が 100%を占めた。また、プログラム制からカリキュラム制に年度途中に移行した専攻医は 98 名で、うちその理由が出産・育児・介護である者は 55 名であった。性別は女性が 87.2%を占めた。本データでは地域枠卒業生かどうかの特定ができないため、地域枠卒業生のみでの分析はできていないが、カリキュラム制の専門研修を受ける理由としてライフイベントの影響は少なくないこと、また、ライフイベントの影響を強く受けるのは女性であることが示唆される結果であった。

#### (3) 地域枠学生・卒業生アンケート

研究グループでオンライン会議を重ねて議論を行い、アンケートの質問項目を策定した。アンケートについては SurveyMonkey を用いてオンラインアンケートができる体制を整えた。倫理委員会での承認を経たのち前年度選定した研究対象とする大学(北海道:札幌医科大学、東北:秋田大学、関東:筑波大学、北陸:新潟大学、東海:名古屋大学、近畿:和歌山医科大学、中国:岡山大学、四国:高知大学、九州:長崎大学)に依頼を行い、現在アンケートを行っている状況である。

#### (4) 自治体アンケート

全国の地域医療支援センターを中心に自治体に質問紙を送付しアンケートを行った。結果

のとりまとめは既に行っているが、分析については進行中である。

#### (5) インタビュー調査

上述の自治体アンケート調査も踏まえて自治体を選定したうえでオンラインのインタビュー調査を行った。結果のとりまとめを既に行い、研究班内でディスカッションを行っている段階である。

### D. 考察

女性医師の割合が 2018 年のデータでは全年齢では 21.9%であるが、29 歳以下では 35.9%を占め、地域医療に従事する女性医師が今後さらに増加することが見込まれる。女性医師の就労状況についてはこれまでも報告がなされているが、一般人口と同様に出産・育児を行う年代で就労率が低下する M 字カーブが存在していることが知られている。我々の先行研究では、女性医師で離職を経験した割合は 4 割に上り、その時期は 90%以上が卒後 10 年以内であった。すなわち、女性医師のキャリアを支援するためには卒後 10 年以内の支援が最も重要であることがわかる。

一方地域枠卒業生では、卒後 9 年間などの従事要件が課されている場合が多く、女性医師の場合ライフイベントと従事要件の両立が課題となる。これは、一般的に女性医師でライフイベントとキャリア形成の両立が課題となることと似てはいるが、従事要件の方には地域医療という要素があること、また両立が叶わない場合離脱という問題が生じることから、より課題が複雑であることが示唆される。医道審議会資料を用いた分析では、2019 年度に専門研修に取り組む地域枠のうち離脱者は 3.9%、うち結婚による配偶者への他県同伴は 12 名であり、41.3% であった。2020 年度のデータにおいては結婚による配偶者への他県同伴は少なかったが、これらのデータは継続して調査 する必要がある。また、結婚による要素以外にも、今後育児、介護などの要素も検討する必要があるだろう。

また、専攻医に関する既存の資料を用いた分析ではカリキュラム制の専門研修を行う医師の現状を整理した。カリキュラム制の研修を新規に行う医師のうちライフイベントが理由である者は 1 割であったが全員が女性であった。また、プログラム制からカリキュラム制に移行した者の

うち約半数がライフイベントが理由であり、約 9 割が女性であった。これらの分析から、改めてライフイベントが専門研修に及ぼす影響が特に女性医師において顕著であることが示された。地域枠卒業生においては、専門研修と地域医療に関する義務とが時期的に重なることを鑑み、キャリア形成に関して一層の留意が必要であると考え。

地域枠学生・卒業生アンケートについては、質問項目を設定し、オンラインアンケートが進行中であるので、次年度はその解析を中心に行う。

自治体に対するアンケート及びインタビュー調査も予定通り行っており、解析を今後さらに行っていく段階である。

## **F. 研究発表**

未発表

### **1. 論文発表**

未発表

## **2. 学会発表**

小池創一、松本正俊、岡崎研太郎、片岡仁美、小谷和彦. 医師・歯科医師・薬剤師調査の中間年における都道府県別医師数の推計に関する検討.第80回日本公衆衛生学会総会

## **G. 知的財産権の出願・登録状況**

なし